

白居易「玉水記方流詩」（『白氏文集』巻21、1414）

（自注）以「流」字為韻、六十字成（「流」字を以て韻と為し、六十字もて成す）。

* 白居易が省試に合格した時の答案。顔延年「贈王太常」詩（『文選』巻26）の一句「玉水記方流」により、五言十二句からなる定型詩を作成。押韻は、この一句五字のうちの平声「流」を用いた。

- 01 良璞含章久 良質の粗玉は美しい文様を久しく内に秘め、
02 寒泉徹底幽 冷たい泉の水は水底まで透き通って奥深い趣きをたたえている。
03 孚尹光灑灑 玉の輝きは水に映じてきらきらと光を放ち、
04 方折浪悠悠 玉を潜めた泉の水は角張った渦を描いて悠悠と波立つ。
05 凌亂波紋異 その玉の沈んでいるあたりは特別に波紋が入り乱れ、
06 縈迴水性柔 玉のまわりを水がまとわりつくように柔らかに渦巻いている。
07 似風搖淺瀨 その様子は、風が浅瀬にそよいで細かな波を立てるようであり、
08 疑月落清流 また清流の中に月が落ちたかと錯覚するほどである。
09 潜穎応傍達 奥深いところで光を放つものはいつかきっと四方に知れ渡るはずであって、
10 蔵真豈上浮 真なる徳を内に秘めているものはどうして軽々しく浮かび上がったでしょうか。
11 玉人如不記 ただ、玉のような立派な人物でも、もし何かに記されることがなかったならば、
12 淪棄即千秋 人々の記憶から打ち捨てられて、永遠に葬り去られることになるのだろう。